

ゴールデンウィークは楽しく過ごした人も多いと思います。私は、あのバスケットボール漫画で有名になった踏切の近くに住んでいますが、かなりの人出がありました。COVID-19が気にはなりますが、まあ、それはそれです。

さて、5月になると1年目研修医の当直が始まります。就職して1か月経ちましたが、右と左は分かってきても、診療の最前線に立つことはやはり緊張します。2回ほど一緒に当直しましたが、自分がどのように動けばいいのかわからない感じで、親鳥の後をついていく雛鳥のようですね。仕方ありません。

2年目の先生の指導は板についてきています。上手に指導してくれていますし、1年間を無駄に過ごした人はいないようです。

先日の当直では救急車が輻輳（ふくそう）し、結構大変でした。また、発熱患者も多いため、隔離したうえで診療を行わなければなりません。COVID-19が5類に分類されても同じです。手間がかかると感じるかもしれませんが、感染を防ぐためには重要な手立てです。

ただ、少し残念に思ったことが一つあります。前から気になっていましたが、診察を行いカルテを書いたら、研修医の仕事はおしまい、という印象を受けます。当院では上級医と一緒に診療するので、安心感があるはず。一方でその症例に対してどのように治療を進めるのか、入院



させるべきか帰宅させるべきかなどの判断も、医師の仕事として重要なことです。これらをせずにいたら、やはり成長はできないと感じます。そのためには勉強と度胸？が大事かなと思います。

本日の点滴は何勝何敗だったかな。今回は上手でした。針は真っ直ぐ使うのだよ。